

適当ナル程度ニ於テ一定ノ地域ヲ保存スルノ必要アリ前ニ記セル地積ハ此目的ニ合フモノト信ズ

**名勝トシテノ桜草原野** 前ニ天然紀念物トシテノ桜草自生地ノ保存ニ就テ述ベタルガ名勝トシテ見ルモ桜草ノ発生セル原野ハ大切ナルハ論ヲ俟タズ旧幕時代ニハ江戸ニ近キ浮間ヶ原、戸田原等ノ荒川沿岸ノ原野ハ桜草ノ名所トシテ知ラレ旧時出版セル名所案内、花鳥曆ノ類ニハ載セザルハナシ是等ノ原野ハ明治20年頃マデハ多少旧態ヲ保テルガ其後土地ノ変化、遊覧者ノ濫採、商売人ノ過度ノ採集等ノ為メニ今日ニテハ同地方ノ桜草ハ殆ンド採リ尽サルルニ至レリ幸ニ荒川ノ上流沿岸地方ニハ今日尚桜草ヲ産セル処アルモ多クハ交通不便ノ為メ觀覽ニ適セス此

桜草原野ノ光景並ニ固有植物ノ図画ニ関シテハ左記ノ自著ニ載セタリ

日本之植物界 161頁并ニ第10図版

人生植物学 329頁并ニ卷首図版

桜草原野保存ノ必要 (東洋学芸雑誌第455号  
大正8年)

増改訂版 最新植物学講義 中巻 817頁

**付記** 前記ノ土合村ノ桜草産地ハ俗ニ田島ヶ原ト称セラルル処ニシテ本員ハ去ル大正5年4月下旬土地ノ有志家深井貞亮氏其他ノ案内ニヨリテ戸川安宅氏ト共ニ視察シ天然紀念物トシテ価値ノ大ナルヲ認メタリ爾來深井氏等ノ熱心ニヨリテ同地ニ保勝会設立セラレ桜草ノ保存ヲ図レルガ其後屢々深井氏ヨリ近



地生自草櫻原島田縣玉埼版圖一第

点ヨリスレバ前記ノ土合村内ノ桜草産地ハ浦和町ヨリ僅ニ一里ニ過ギズ且つ車馬ノ便アルヲ以テ名勝トシテモ保存スルニ適当ナル土地ト云フベシ

近年該原野モ次第ニ知ラレ遊覧者多キヲ加ヘ随テ桜草ノ採去ラルルモノ夥シクナレリ故ニ速ニ同原野ヲ天然紀念物トシテ指定シ以テ學術ノ考証ニ資シーハ帝都付近ニ美麗ナル武蔵野ノ一部ヲ有数ナル名勝トシテ遺サンコトヲ希望ス

年ニ至リ同地ノ桜草ノ濫採益々多キヲ聞キ切ニ保存ノ必要ヲ感ゼリ次デ本年4月25日本員ハ史蹟名勝天然紀念物調査会幹事山田準次郎氏、同渡部信氏、同会臨時委員荻野仲三郎氏、同会考查員吉井義次氏等ト同地ヲ視察シ現状ヲ調査セリ本報告ハ前後ニ回ノ視察ニヨリ起草シタルモノナリ

(史蹟名勝天然紀念物調査報告第十二号 1920)



地生自草櫻原島田縣玉埼版圖二第



地生自草櫻原島田縣玉埼版圖三第



(二) 化整ノ花ノ草摺ノ生野  
(大 敷 貞)



(一) 化整ノ花ノ草摺ノ生野  
(大 敷 貞)

## 理学博士 三好 學

植物生理学者。(1862. 1. 4~1935. 5. 11)  
 明治22年(1889)東京帝国大学(現東京大学)  
 卒。大学院の途中でドイツへ留学。ライプチヒ大学  
 で植物生理学を学び、帰国後は東大教授として学生  
 の指導にあたるかたわら、自らも幅広い研究を続け  
 る。著書も多く、専門書から随筆集まで多岐にわた  
 り、ヨーロッパの植物学を紹介する著書で「植物生

態学」という造語を初めて用いている。

明治39年(1906)に天然記念物保存の必要性を  
 訴え、その後は内務省の天然記念物調査会委員など  
 に就任し、天然記念物保存の立法化に尽力した。

参考資料 「現代日本 朝日人物事典」朝日新聞  
 社



写真は、大正5年4月25日に、田島ヶ原を視察する三好学  
 博士一行と、案内の深井貞亮氏ほか土合村有志の方々で  
 す。右から5番目の人物が三好博士です。

(写真 深井亨二氏 蔵)



さくらそう通信

平成10年2月27日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796

印刷 関東図書株式会社



題字 教育長 浅見 匡